

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 国立大学法人 宮城教育大学 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地
E-mail kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp
Website http://www.miyakyo-u.ac.jp/
幼児児童生徒数 男子 名 女子 名 合計 1615 名
幼児・児童・生徒の年齢 18 歳～ 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本学は、「持続可能な社会構築と安心な生活環境の確保に資する教育に貢献する。教育格差等の地域社会の問題の解決を目指し、地球規模での問題も意識した教育・研究を推すること」を第三期中期計画の目標 (3-17) に掲げ、ESD を地域貢献・地域連携の方策と捉え、ESD の実践を通して、児童生徒と教員養成課程の学生、教員の資質能力における Social Skill の養成を目指している。

具体的には、学校支援、地域支援、教育研究活動を柱に、①ユネスコスクール・ESD の学校支援に係わる活動、②地域連携・地域支援に係わる活動、③学部学生教育・教師教育に係わる活動、④研究活動に係わる活動を行った。

① ユネスコスクール・ESD の学校支援に係わる活動

ASPUinivNet の創設校・メンバー校として、ユネスコパートナーシップ事業により、「第 6 回ユネスコスクール東北大会」を 11 月 10 日に開催、東北地方内外から 100 名の参加者を集めた。ユネスコスクールの新規加盟希望校、個別のユネスコスクール校に向けて個別の加盟申請や活動支援を行うとともに、また、教育委員会単位で行われるユネスコスクール ESD 研修会に対する支援を行った。

②地域連携・地域支援に係わる活動

2005年に仙台広域圏 RCE として認定されたその事務局として、また、2015年からはユネスコスクール/ESD 東北コンソーシアムの活動の運営主体として、環境関係団体 NPO、ユネスコ協会、教育委員会等と連携しながら、東北地方の各地域における ESD の展開を促進している。本年度は、仙台ユネスコ協会「日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台」(7月15日・16日) NPO 法人環境会議所東北「持続可能な社会にむけた地域からのアクション」(9月3日) Feel Sendai「環境フォーラムせんだい」(12月10日)などに協力した。

③学部学生教育・教師教育に係わる活動

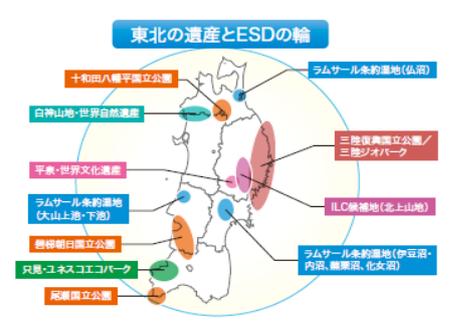
現代的な課題を解決する目的で設定している学部教育(副専攻)科目「現代的課題科目群」の複数の科目において、ESD について学習する時間が設定されている。免許状更新講習においては、現職教員に向けて、ESD 入門科目を、大学と気仙沼市において、2日間連続で開催している。①で言及した学校支援、教員研修の場に学生の参加を促している。修士課程で、ESD をテーマとして論文を作成する学生も出ている。

④研究活動に係わる活動

環境、国際理解、防災などの各分野において、ESD と関連付けた活動を行っている。マダガスカル ESD 事業(教員キャリア機構環境教育・情報システム研究領域)、ノーベル平和賞講演会(7月15日)(教員キャリア機構国際教育研究領域)、世界防災フォーラム・防災ダボス会議「持続可能な開発と防災・減災」(防災教育未来づくり総合研究センター)(11月27日)などである。本年度は教員キャリア研究機構に、ESD 教育研究部門を設けて、ESD 研究の推進部門を明確にした。



① ユネスコスクール研修会



② 東北コンソーシアム



③ 教員研修に学生も参加



④ 防災フォーラム

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

『「持続可能な開発のための教育」推進の手引き』 新学習指導要領ウェブサイト 国際連合広報センター SDGs ウェブサイト
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

本学は、「持続可能な社会構築と安心な生活環境の確保に資する教育に貢献する。教育格差等の地域社会の問題の解決を目指し、地球規模での問題も意識した教育・研究を推すること」を第三期中期計画の目標（3-17）に掲げ、ESD を地域貢献・地域連携の方策の一つに位置付けている。

本年度は、学生教育、教師教育の学習内容として「新学習指導要領との関連付け」、「SDGs の目標の導入」を中心的に行った。ESD に関連する授業科目、免許状更新講習科目は、授業の内容、教育方法について評価をうけたのち、次年度の授業にフィードバックして毎年改善している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

2010 年から ESD に関連する学内センターを構成メンバーとする、大学内に ESD・RCE 推進会議を設けていたが、本年度は、現状に合わせて、規定の整備を行った。また、本年度から教員キャリア研究機構に、ESD 教育システム研究部門を設置し、ESD についての研究のあり方を明示するようにした。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

上述のように大学の中期目標に「ESD の推進」や「持続可能な社会構築」が明記されている。それらの年間計画の進捗状況について評価を受けている。また教員キャリア研究機構の「ESD 教育システム研究」も外部評価を受けている。

本学における継続的な課題は、ESD 関連の活動が数多く行われていても ESD につながる認識が広まらないこと、教員と事務局の協力によって事業が進められているが、4、5名の教員の参画によってのみ活動が展開していることである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ASPUnivNet メンバー校として「ユネスコスクール東北大会」、東北コンソーシアムの運営主体として「ESD 活動支援センター成果報告会」において大学の活動の成果を発信している。また、ESD 関連のイベントでは、メディアを通して活動内容を発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

仙台広域圏 ESD/RCE 推進委員会の事務局、ユネスコスクール/ESD 東北コンソーシアム運営委員会を主管している。また東北地方 ESD 活動支援センターのメンバーである。それら団体を通して、学校以外の民間団体、社会教育施設、省庁、NPO、企業等と連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

海外との交流

中国の ESD 推進部門である中国可持続発展委員会と研究交流をしている。ヨーロッパの Baltic and Black sea Circe Consortium (BBCC) と研究交流をしている。

国内の交流

ユネスコスクールである奈良教育大学、玉川大学と交流している。仙台ユネスコ協会青年部に所属する学生によるユネスコ青年部の活動が展開している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

本年度は附属小学校の複数の教員にむけて免許状更新講習会の参加やユネスコスクール全国大会への参加を促した。その結果、附属小学校の教員の間でESDについて自主的に学習する機運が生まれ、教員による「宮城ESD研究会」が成立した。大学では、平成32年から導入される新カリキュラム「総合的な学習の時間の指導法」において教員養成課程のすべての学生に、ESDについて学習できるようなカリキュラムの編成のために準備を行っている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は学生教育や現職者教育、教育研究活動を継続して行うほか、以下のような支援や協働を予定している。

①宮城・気仙沼地区：

ESD/ユネスコスクール研修会（6月、1月）ESD円卓会議2018（11月）

②福島・只見地区：

只見町公開研究会（11月）

③福島・安達地区：安達高校ESD公開研究発表会（9月）

④秋田・大仙地区：ESD公開研究会（11月）

⑤宮城・仙台地区

東北コンソーシアム学習会（9月）

ユネスコスクール東北大会（11月）

ESD活動支援センター成果報告会（2月）